

経営比較分析表（令和6年度決算）

岐阜県 羽島市

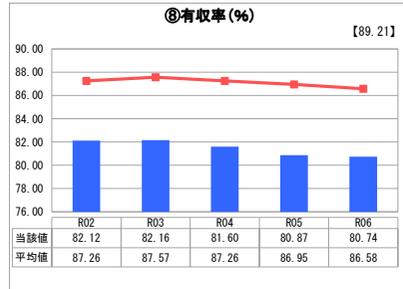
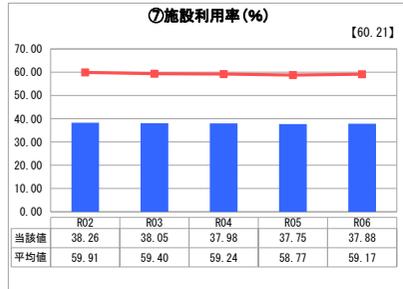
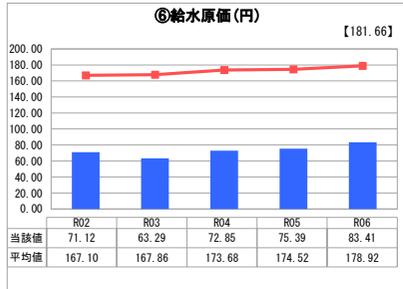
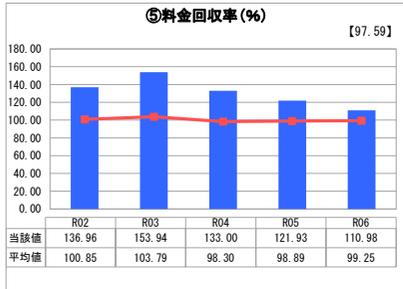
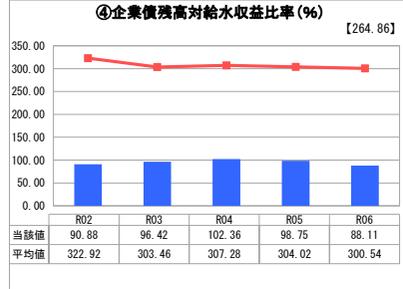
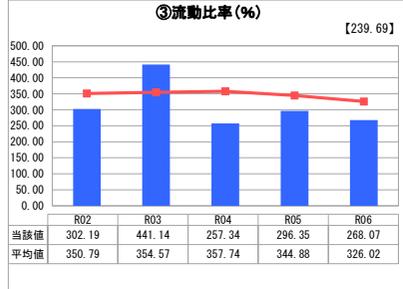
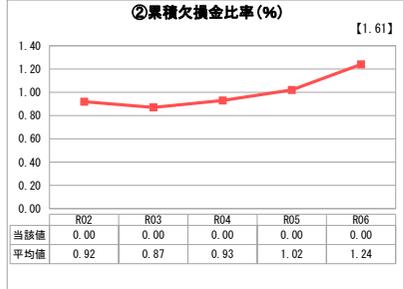
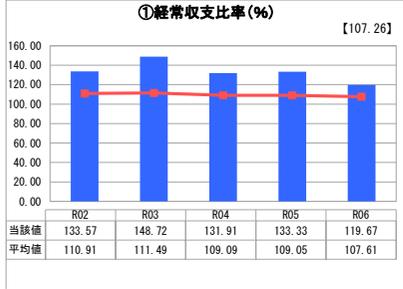
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	91.22	92.16	1,991	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
66,517	53.66	1,239.60
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
61,053	43.07	1,417.53

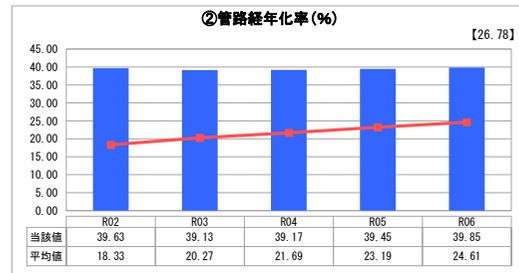
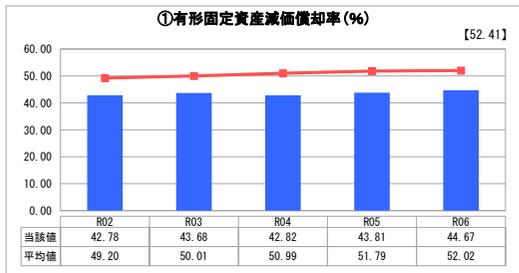
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

羽島市は水資源（地下水）に恵まれており、取水及び浄水に多額の費用を要しないため、⑥給水原価が低く抑えられています。

⑤料金回収率は100%を上回っており、給水に必要な費用を料金収入で賄うことができています。

①経常収支比率は良好な状況にあります。

②累積欠損金比率は0%で損失のない健全経営が行われており、③流動比率は類似団体平均を下回るものの、収益性の高い事業経営が維持されていることにより、流動資産が確保されている状態です。

④企業債残高対給水収益比率は、平成30年度から令和4年度まで水源地耐震化事業のために企業債の借入を行ったため、残高が漸増しましたが、現在は減減しており、類似団体平均を大きく下回っています。

⑦施設利用率は類似団体平均と比べて低い値で推移しており、今後、需要に見合った施設規模の適正化を図る必要があります。

⑧有収率は類似団体平均値に比べ低い水準にあり、平成27年度から漏水調査等を行い管路の修繕を行うなど、漏水対策に努めており、令和6年度には衛星画像解析による漏水リスク調査を行い、漏水調査を効率的に行うことができました。今後も他の手法を検討するなど、漏水調査や管路修繕等を効率的に実施し、有収率向上に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び②管路経年率は、いずれも横ばいで推移しており、アセットマネジメントの実施により耐用年数経過管路の見直しを行ったことで、さらに管路経年率が延びています。

③管路更新率については類似団体平均を下回っており、更新が進んでいません。これは、第2期水道整備計画に基づき、国の定める令和7年度耐震化率54%、令和10年度耐震化率80%を目指して基幹管路の耐震化等を重点的に実施しているためです。

①及び②の数値を勘案すると、施設・管路の更新工事を進める必要がありますが、上述の水道整備計画では令和8年度までは基幹管路の耐震化を主に実施する計画であり、本格的に老朽管路更新に着手するのはそれ以降となります。当面は老朽化による事故や故障の防止のため、点検や修繕など適切な維持管理によって延命化を図りながら、効率的かつ計画的な施設・管路の更新を実施する必要があります。

全体総括

羽島市の経営状況は、経営の健全性・効率性の観点から見ると、おおむね健全な状態にあるといえます。

しかし、今後は水需要の低下や物価高、老朽化した施設・管路の更新・維持管理に係る費用の増加が見込まれることから、現金等の資産が減少していくことが予想されます。

そのため、羽島市新水道ビジョンに沿って事業を着実に推進し、羽島市水道事業経営戦略に基づき更なる経営の健全化向上に努めつつ、第3期水道整備計画において今後の料金改定の検討が必要となります。